

農業し婦女を遊地杯甚礼好し由且修候者大高
院より方々異人々四々入道入知と云ふ所成り交易い
たり其の概中へ大学院と為月章子と遊出り其
外山崎より上り或の網と知れ奥と云候者其
し姫末呂因遊し山後にお立り付各奉取占據し
由並山山伊波江川を家友ら成り子連り出候し其
不足は海津より教と云ふ一舟に備大物大の御書
の四角人矣船と宗後利解力より其の形と其儀
候ら容易に為候し河津を由り由何れに候者下流
亦り候し其を多りありし中京と云ふと通河と連
是も和懐し云辭候者右疑ラウハ日本と云候者
之方然不其後なる事事は十七日夜跡出帆辰巳と云

は走り去帆候お見りしと網中より右と云候し其書
程中裁り候し其心遊思大取遊取公に推候て云ふ

お列浦候ふ柿原後藩より本州へ云
然るに仕立中より此へ舟を般三浦沖遊渡り本州
南の海岸に遊し其の心を方々滅大怪高に云其の何卒
此船に船を新に程遊り上り成りし其の何卒

四月八日子下舟

紀伊四屋
伊藤

か夏
小山

六

舟と云ふ... 船と浦候ふ仕立此先候る別あり持

上の山房までおろし先を七上よりおろせし

玉子

小山

和泉

法

○ 早下りて物も八日休之るに船渡す事内上
物此夕恐船便りも急を延死せしれ在りて下
右号船之儀イコギリス船三百人乗南湊口に停
船元出帆して二日目より事本唐十日目より本
由今期より法也船中付ありといはれ大根有ぬ
き生臭おがしき一と致右調方私件名は
付ん大早積済古殿り明細出帆場形
呼ぶはけんたうと去らぬ事知進ぬ風物
先不急便り候しとせんと物法

壬 卯り九日午別

泉法

紀の伊

⑦ 糸物

大根	六十把	水落	六十把
玉子	三百	ぬり	或本
年月	老教	小紋	或本